

施設栽培葉ジソ（オオバ）におけるスワルスキーカブリダニを用いたチャノホコリダニ防除

垣内加奈子・谷岡 賀子*・渡邊 晃充*（高知農技セ・*高知中央東農振セ）

代替餌となる花粉がなく、葉上放飼では製剤内のふすまが収穫葉に付着し商品性を損なう可能性のある施設栽培葉ジソにおいて、チャノホコリダニ（以下チャノホコリ）防除を目的としたスワルスキーカブリダニ（以下スワルスキー）の放飼方法を検討し、これまでに耐油性紙袋を用いた放飼方法がサトウダニの増殖、労力面から有効であることを明らかにした（垣内・広瀬, 2012）。そこで、本放飼法の圃場における防除効果を検討したところ、若干の知見を得たので報告する。なお、本試験は「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業）」において実施したものである。

【方法と結果】

○**放飼方法の比較**：南国市の現地圃場（2012年5月21日定植）において放飼に耐油性紙袋を用いる区（耐油袋区）と紙コップ（宮崎県, 2012）を用いる区（紙コップ区）を設け（各0.8a）、株上でのカブリダニ類の生息数を比較した。8月31日にスワルスキーを放飼したところ、両区とも調査を終了した10月26日までカブリダニ類の生息が見られたが、虫数は紙コップ区に比べ耐油袋区で多く推移した。

○**圃場における防除効果**：所内圃場（2012年7月17日定植）において、9月28日に耐油性紙袋を用いてスワルスキーを放飼した放飼区と無放飼区を設け（各1a）、防除効果を調査したところ、無放飼区では10月にチャノホコリの発生が認められたが、放飼区では発生が見られなかった。また、チャノホコリが発生している香美市の現地圃場（面積：8.3a、2011年9月21日定植）において耐油性紙袋を用いた方法で4月27日にスワルスキーを放飼したところ、カブリダニ類の増加に伴いチャノホコリ寄生株率は低下し、被害が抑えられた。一方、香美市の現地圃場（面積：10a、2012年4月5日定植）において耐油性紙袋を用いた方法で6月26日、8月21日にスワルスキーを放飼した試験では、土着のヘヤカブリダニが発生したこと、放飼後約1ヶ月から1ヶ月半でスワルスキーの生息がほとんど認められなくなったことから、スワルスキー単独での防除効果については判然としなかった。本試験圃場は通路がぬかるむなど多湿条件であったことから、耐油性紙袋内の資材が固まり、サトウダニの増殖に悪影響を及ぼした可能性が考えられた。

○**低温期の防除効果**：香美市の現地圃場（面積：4.3a、2012年8月8日定植）において紙コップを用いた方法で9月21日にスワルスキーを放飼したところ、11月まではスワルスキーによるチャノホコリ防除効果が認められたが、12月以降はスワルスキーの生息が認められたにもかかわらずチャノホコリ寄生株率が増加した。

【考察】

以上の結果より、耐油性紙袋を用いてスワルスキーを放飼することで葉ジソ上に発生するチャノホコリを抑えることが可能であるが、低温期には防除効果が低下するため薬剤防除に切り替える必要があると考えられた。また、多湿条件では耐油性紙袋内の環境が悪化し、スワルスキーの発生に影響する可能性が考えられたため、改善策の検討が必要である。